日本・東洋美術史　　2017年12月刊行

日本絵画史論攷——紺丹緑紫抄

（こんたんりょくししょう）

有賀祥隆（東北大学名誉教授）著

B5判上製函入　本文四七八頁　口絵一六頁　挿図七〇〇点
ISBN 978-4-8055-0800-8 C3071

本体価格　三〇、〇〇〇円＋税

本書で副題にした「紺丹緑紫抄」の「紺丹緑紫」は、古来よりわが国で色の取り合わせを示す慣用語として口遊まれてきた四字熟語である。つまり、紺色の隣りには橙赤色、緑には紫色を隣り合わせて用いるのが、色を活かす一つの常則とされてきた（『二中歴』）。絵画にあって色の占める意味が大きいこともあり、「紺丹緑紫」を絵画とほぼ同意義と見做して使用したものである。

本書は、いくつかの絵画作品について論じたものであるが、一つのテーマを掲げて論考を集成した研究書ではなく、長年に亘って各誌に書き散らした拙文を寄せ集め纏めたものである。

なお、以上四篇の附として、「終章　日本美術の特質」を収録したが、本論は日本美術の特長を指摘あるいは抽出する方法の一つとして述べたものである。その結果、導かれる日本美術の特長・特質に通底するものは、最初に述べた「紺丹緑紫」のように「色」に関わる表現技法であったように思われる。

（「はじめに」より抜粋）

中央公論美術出版
TEL 03-5577-4797／FAX 03-5577-4798
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-10-1　ＩＶＹビル６Ｆ

お取り扱いは

永らく文化財保存と普及の第一線に携わり、日本美術史研究を領導してこられた著者による、その成果を精選した論文集

目　次

第一篇　主題

第一章　准胝観音像について
第二章　神上寺本仁王経曼荼羅図考
第三章　大元帥明王図像雑攷
　—旧理性院本を中心として—
第四章　円仁と仏教美術
第五章　国宝鶴林寺太子堂内陣荘厳画私見
第六章　法華寺横笛堂仏後壁画普賢菩薩影向図について
第七章　醍醐寺本国宝文殊渡海図
第八章　大和文華館所蔵文殊菩薩像について
　付論１　興福寺所蔵眉間寺伝来の春日曼荼羅
　付論２　新出の「春日宮曼荼羅図」雑感
第九章　時宗の祖師画像について

第二篇　制作年代

第一章　来振寺五大尊像
　付論３　私と国宝・来振寺本五大尊像
第二章　高松塚古墳壁画制作年代考
第三章　キトラ古墳壁画の白虎をみるために
　—あるいは高松塚古墳壁画比較論—
第四章　聖徳太子及天台高僧像
第五章　斑鳩寺本太子講讃図覚書
第六章　仏画を読む
　—東寺旧蔵十二天画像（京都国立博物館所蔵）の制作年代について—
第七章　恵日寺絵図について—絵画史の視点から—

第三篇　筆者・筆者系統

第一章　東京・西新井大師所蔵鋳銅刻画蔵王権現蔵雑攷
第二章　金剛峯寺本仏涅槃図（応徳涅槃）
第三章　平安仏画と南都仏画
第四章　南都絵仏師の活躍

第四篇　制作背景

第一章　法隆寺金堂壁画とその制作背景
第二章　曼殊院本国宝不動明王像（黄不動）
第三章　金光明最勝王経金字宝塔曼荼羅図再考
第四章　醍醐寺所蔵山水屏風について
　付論４　醍醐寺五重塔壁画再見
　—国風文化と密教絵画—

終章　日本美術の特質

著者略歴

有賀祥隆（ありが・よしたか）

1940年　岐阜県生まれ
1963年　東北大学文学部東洋芸術史科卒業
1967年　文化財保護委員会事務局美術工芸課文部技官
1979年　文化庁文化財保護部美術工芸課文化財調査官　奈良国立博物館学芸課普及室長
1989年　文化庁文化財保護部美術工芸課主任文化財調査官
1990年　東北大学文学部教授
2004年　東北大学大学院文学研究科教授定年退官　東京藝術大学客員教授　現在にいたる

主著に『仏画の鑑賞基礎知識』（至文堂 1991年）、『図説　日本の仏教二　密教』（共著 新潮社 1988年）『醍醐寺大観　第２巻　絵画（古代・中世）』（共著 岩波書店 2002年）などがある。

関連書籍

院政期仏画と唐宋絵画
増記 隆介　著　本体価格 15,000円＋税
A５判上製函入　口絵16頁　本文576頁　挿図201点
ISBN 978-4-8055-0752-0

仏画の尊容表現
泉　武夫　著　本体価格 30,000円＋税
B5判上製函入　口絵28頁　本文428頁　挿図216点
ISBN 978-4-8055-0635-6